

仕様書		業務名 固定資産税(償却資産)	プログラム名(内部整理用) DACO(償却資産申告書(一般・電算))		作成期限														
※コマンドトークンス名	※バッチプロテクション	作成者 法人課		作成年月日 R7.12.22	No. 1 / 4														
原票名		※スタンダードジョブ名		※バッチ名															
償却資産申告書(償却資産課税台帳)																			
(一般申告用・電算申告用共通)																			
1 区コード 外部ファイル設計書のとおり 申告書の「区」欄に記載された区コードを以下の通り変換のうえ、区コードのデータを作成する。 <table><tr><td>記載内容</td><td>変換後</td></tr><tr><td>・ 1</td><td>→ 01(中央区)</td></tr><tr><td>・ 2</td><td>→ 02(花見川区)</td></tr><tr><td>・ 3</td><td>→ 03(稲毛区)</td></tr><tr><td>・ 4</td><td>→ 04(若葉区)</td></tr><tr><td>・ 5</td><td>→ 05(緑区)</td></tr><tr><td>・ 6</td><td>→ 06(美浜区)</td></tr></table> 区コードが、上記のコード以外または無記入の場合は、その箇所を蛍光マーカーで着色のうえ申告書に付箋を貼付し、その申告書と申告書に付随する帳票(DBZO(種類別明細書(増加資産用・全資産用))及びDBG0(種類別明細書(減少資産用))及びDADO(償却資産申告書(電算課税))のデータ作成を行わず、不作成リストを作成する。				記載内容	変換後	・ 1	→ 01(中央区)	・ 2	→ 02(花見川区)	・ 3	→ 03(稲毛区)	・ 4	→ 04(若葉区)	・ 5	→ 05(緑区)	・ 6	→ 06(美浜区)	1. OUTPUT DEVICE CD-RW(正副) 2. RECORD SIZE 298 BYTE 3. FILE NAME 申告受付パンチデータ 不作成リストとは、パンチデータを作成しない帳票に関する以下の項目を表示したリストである。 ①項番 ②帳票コード ③宛名番号(DACOの番号を記載) ④エラー項目名 当該リストは、一般分(DACOとDBZO、DBG0)と電算分(DACOとDADO)を別に作成し、excel形式で作成すること。	
記載内容	変換後																		
・ 1	→ 01(中央区)																		
・ 2	→ 02(花見川区)																		
・ 3	→ 03(稲毛区)																		
・ 4	→ 04(若葉区)																		
・ 5	→ 05(緑区)																		
・ 6	→ 06(美浜区)																		
2 年度 外部ファイル設計書のとおり 申告書に記載された内容を以下の通り変換のうえ、年度のデータを作成する。 <table><tr><td>記載内容</td><td>変換後</td><td>記載内容</td><td>変換後</td></tr><tr><td>・9(令和9年度)</td><td>→ 2027</td><td>・39(平成39年度)</td><td>→ 2027</td></tr></table>				記載内容	変換後	記載内容	変換後	・9(令和9年度)	→ 2027	・39(平成39年度)	→ 2027								
記載内容	変換後	記載内容	変換後																
・9(令和9年度)	→ 2027	・39(平成39年度)	→ 2027																

・無記入 → 2027

年度が上記以外の場合は、その箇所を蛍光マーカーで着色のうえ申告書に付箋を貼付し、その申告書と申告書に付随する帳票（DBZO（種類別明細書（増加資産用・全資産用））及びDBGO（種類別明細書（減少資産用））及びDADO（償却資産申告書（電算課税）））のデータ作成を行わず、不作成リストを作成する。

3 宛名番号

外部ファイル設計書のとおり

申告書の「所有者コード」欄に記載された宛名番号（所有者コード）のデータを作成する。申告書に記載された宛名番号（所有者コード）が9桁の場合は、宛名番号の先頭に「00」を追加し、11桁でデータ作成すること。

宛名番号が、9桁、11桁の算用数字以外または無記入の場合は、その箇所を蛍光マーカーで着色のうえ申告書に付箋を貼付し、その申告書と申告書に付随する帳票（DBZO（種類別明細書（増加資産用・全資産用））及びDBGO（種類別明細書（減少資産用））及びDADO（償却資産申告書（電算課税）））のデータ作成を行わず、不作成リストを作成する。

4 更正事由コード及び更正年月日

外部ファイル設計書のとおり。コード及び入力日については、別途指示による。

5 申告書受付年月日

外部ファイル設計書のとおり

申告書に押印された受付印の年（和暦）を以下の通り変換のうえ、受付日のデータを作成する。

申告書記載内容	変換後	例
・ 9（令和9年） → 2027	[押印]9.1.4 → 20270104	

・ 9（令和9年） → 2027 [押印]9.1.4 → 20270104

受付印が複数押印されている場合は、最新の日付でデータを作成する。

受付日が令和9年1月4日（9.1.4）前の場合は、令和9年1月4日（20270104）に変換しデータを作成すること。

受付印が押印されていない場合は、当該申告書の前後の申告書に記載されている受付印の最新の日付でデータを作成し、「受付日XXXX年XX月XX日で入力」と記載した付箋を貼付する。

6 事業種目コード

外部ファイル設計書のとおり

申告書の「事業種目」欄に記載された内容のデータを作成する。

申告書に記載がない場合はデータの作成を行わないこと。

仕様書		業務名 固定資産税(償却資産)	プログラム名(内部整理用) DACO(償却資産申告書(一般・電算))	作成期限	
※コマンドトークンス名	※バッチプロテクション	作成者 法人課	作成年月日 R7.12.22	No.	2 / 4
原票名		※スタンダードジョブ名		※バッチ名	
償却資産申告書(償却資産課税台帳)					
(一般申告用・電算申告用共通)					

7 資本金

外部ファイル設計書のとおり

申告書の「(資本金等の金額)」に記載された内容を算用数字でデータを作成する。

以下に示すような記載の場合は円単位に変換し、データを作成すること。

記載内容	変換後
・ 10(百万円)	→ 10000000
・ 1.00(百万円)	→ 1000000
・ 一千万円	→ 10000000
・ 1000000(円)	→ 1000000

※桁オーバーや1円未満の金額が記載されている場合は、データの作成を行わないこと。

8 事業開始年月

外部ファイル設計書のとおり

申告書の「千葉市の区内での事業開始年月」欄に記載された事業開始年月を算用数字8桁(yyyymmdd)でデータを作成する。

複数の記載がある場合は、最古の年月でデータを作成し、採用した年月に鉛筆で○を囲うこと。(付箋不要)

以下に示すような記載の場合は変換し、データを作成すること。

記載内容	変換後
・日の記載がない	→ 日にスペースを入れる
例:平成27年4月	→ 201504 〃 〃
・和暦で記載	→ 西暦に変換

<p>処 理 条 件</p>	<p>例:昭和47年4月1月 → 19720401</p> <p>・和暦(アルファベット)で記載 → 西暦に変換</p> <p>例:S47年4月 → 197204 _ _</p> <p>※M=明治 T=大正 S=昭和 H=平成 R=令和</p> <p>・年が2桁で年号の記載がない → 和暦(平成)として扱い西暦に変換</p> <p>例:27年4月1月 → 20150401</p> <p>・年が1桁で年号の記載がない → 和暦(令和)として扱い西暦に変換</p> <p>例:1年6月、元年6月 → 201906 _ _</p>	
	<p>9 決算期</p> <p>外部ファイル設計書のとおり</p> <p>申告書の「決算期」欄に記載された決算期を算用数字2桁でデータを作成する。</p> <p>申告書に記載された決算期が13以上の場合は、データを作成しないこと。</p> <p>申告書に記載された決算期が1桁の場合は、決算期の先頭に「0」を追加し、2桁でデータ作成すること。</p> <p>複数の記載がある場合は、当該欄の左側に記載された決算期でデータを作成し、採用した決算期に鉛筆で○を囲うこと。(付箋不要)</p>	
	<p>10 担当者氏名及び税理士氏名</p> <p>外部ファイル設計書のとおり</p> <p>申告書の「この申告に応答する者の係及び氏名」欄及び「税理士等の氏名」欄に記載された内容のデータを作成する。</p> <p>申告書に記載がない場合はデータの作成を行わないこと。</p> <p>申告書に記載された内容のうち判読できない文字がある場合は、該当の文字のみスペース等でデータを作成すること。</p> <p>申告書に記載された内容の全てが判読できない場合はデータの作成を行わないこと。</p>	<p>スペース等:「_」や「■」など</p>
	<p>11 担当者電話番号及び税理士電話番号</p> <p>外部ファイル設計書のとおり</p> <p>申告書の「この申告に応答する者の係及び氏名」欄及び「税理士等の氏名」欄に記載された電話番号のデータを作成する。</p> <p>・担当者電話番号1及び税理士電話番号1 → 市外局番を入力する</p> <p>・担当者電話番号2及び税理士電話番号2 → 市内局番を入力する</p> <p>・担当者電話番号3及び税理士電話番号3 → 加入者番号を入力する</p>	

仕様書		業務名 固定資産税(償却資産)	プログラム名(内部整理用) DACO(償却資産申告書(一般・電算))	作成期限																	
※コマンドトークンス名	※バッチプロテクション	作成者 法人課		作成年月日 R7.12.22	No. 3 / 4																
原票名		※スタンダードジョブ名		※バッチ名																	
償却資産申告書(償却資産課税台帳)																					
(一般申告用・電算申告用共通)																					
<p>※携帯電話等の番号については電話番号1に3桁、電話番号2に4桁、電話番号3に4桁を入力すること。</p> <p>12 短縮年数資産有無及び増加償却資産有無 外部ファイル設計書のとおり 申告書の「短縮耐用年数の承認」欄及び「増加償却の届出」欄に記載された内容を以下の通り変換のうえ、データの作成を行う。</p> <table><tr><td>記載内容</td><td>変換後</td></tr><tr><td>・「有」に印あり</td><td>→ 「1」で入力する</td></tr><tr><td>・「無」に印あり</td><td>→ 「0」で入力する</td></tr><tr><td>・「有」「無」両方に印あり</td><td>→ 「1」で入力する</td></tr><tr><td>・記載なし</td><td>→ 「0」で入力する</td></tr></table> <p>13 非課税資産有無 外部ファイル設計書のとおり 申告書の「非課税該当資産」欄に記載された内容を以下通り変換のうえ、データの作成を行う。</p> <table><tr><td>記載内容</td><td>変換後</td></tr><tr><td>・「無」に印あり</td><td>→ 「0」で入力する</td></tr><tr><td>・記載なし</td><td>→ 「0」で入力する</td></tr></table> <p>「非課税該当資産」欄の「有」に印及び「有」「無」両方に印がある場合は、その箇所を蛍光マーカーで着色のうえ申告書に付箋を貼付し、その申告書と申告書に付随する帳票(DBZO(種類別明細書(増加資産用・全資産用))及びDBGO(種類別明細書(減少資産用))及びDADO(償却資産申告書(電算課税))の</p>						記載内容	変換後	・「有」に印あり	→ 「1」で入力する	・「無」に印あり	→ 「0」で入力する	・「有」「無」両方に印あり	→ 「1」で入力する	・記載なし	→ 「0」で入力する	記載内容	変換後	・「無」に印あり	→ 「0」で入力する	・記載なし	→ 「0」で入力する
記載内容	変換後																				
・「有」に印あり	→ 「1」で入力する																				
・「無」に印あり	→ 「0」で入力する																				
・「有」「無」両方に印あり	→ 「1」で入力する																				
・記載なし	→ 「0」で入力する																				
記載内容	変換後																				
・「無」に印あり	→ 「0」で入力する																				
・記載なし	→ 「0」で入力する																				

	データ作成を行わず、不作成リストを作成する。	
処 理 条 件	14 課税特例資産有無	
	外部ファイル設計書のとおり	
	申告書の「課税標準の特例」欄に記載された内容を以下通り変換のうえ、データの作成を行う。	
	記載内容	変換後
	・「無」に印あり	→ 「0」で入力する
	・記載なし	→ 「0」で入力する
	「課税標準の特例」欄の「有」に印及び「有」「無」両方に印がある場合は、その箇所を蛍光マーカーで着色のうえ申告書に付箋を貼付し、その申告書と申告書に付随する帳票（DBZO（種類別明細書（増加資産用・全資産用））及びDBG0（種類別明細書（減少資産用））及びDADO（償却資産申告書（電算課税）））のデータ作成を行わず、不作成リストを作成する。	
	15 特別償却圧縮記帳有無	
	外部ファイル設計書のとおり	
	申告書の「特別償却又は圧縮記帳」欄に記載された内容を以下の通り変換のうえ、データの作成を行う。	
	記載内容	変換後
	・「有」に印あり	→ 「1」で入力する
	・「無」に印あり	→ 「0」で入力する
	・「有」「無」両方に印あり	→ 「1」で入力する
	・記載なし	→ 「0」で入力する
	16 償却方法	
	外部ファイル設計書のとおり	
	申告書の「税務会計上の償却方法」欄に記載された内容を以下の通り変換のうえ、データの作成を行う。	
	記載内容	変換後
	・「定率法」に印あり	→ 「2」で入力する
	・「定額法」に印あり	→ 「3」で入力する
	・「定率法」「定額法」両方に印あり	→ 「2」で入力する
	申告書に記載がない場合はデータの作成を行わないこと。	

仕様書		業務名 固定資産税(償却資産)	プログラム名(内部整理用) DACO(償却資産申告書(一般・電算))	作成期限																					
※コマンドトークンス名	※バッチプロテクション	作成者 法人課	作成年月日 R7.12.22	No.	4 / 4																				
原票名		※スタンダードジョブ名		※バッチ名																					
償却資産申告書(償却資産課税台帳)																									
(一般申告用・電算申告用共通)																									
<div>17 青色申告有無</div> <div>外部ファイル設計書のとおり</div> <div>申告書の「青色申告」欄に記載された内容を以下の通り変換のうえ、データの作成を行う。</div> <table><tr><td>記載内容</td><td>変換後</td></tr><tr><td>・「有」に印あり</td><td>→ 「1」で入力する</td></tr><tr><td>・「無」に印あり</td><td>→ 「0」で入力する</td></tr><tr><td>・「有」「無」両方に印あり</td><td>→ 「1」で入力する</td></tr><tr><td>・記載なし</td><td>→ 「0」で入力する</td></tr></table> <div>18 借用資産有無</div> <div>外部ファイル設計書のとおり</div> <div>申告書の「借用資産(有・無)」欄に記載された内容を以下の通り変換のうえ、データの作成を行う。</div> <table><tr><td>記載内容</td><td>変換後</td></tr><tr><td>・「有」に印あり</td><td>→ 「1」で入力する</td></tr><tr><td>・「無」に印あり</td><td>→ 「0」で入力する</td></tr><tr><td>・「有」「無」両方に印あり</td><td>→ 「1」で入力する</td></tr><tr><td>・記載なし</td><td>→ 「0」で入力する</td></tr></table> <div>19 事業所用家屋の所有区分</div> <div>外部ファイル設計書のとおり</div> <div>申告書の「事業所用家屋の所有区分」欄に記載された内容を以下の通り変換のうえ、データの作成を行う。</div>						記載内容	変換後	・「有」に印あり	→ 「1」で入力する	・「無」に印あり	→ 「0」で入力する	・「有」「無」両方に印あり	→ 「1」で入力する	・記載なし	→ 「0」で入力する	記載内容	変換後	・「有」に印あり	→ 「1」で入力する	・「無」に印あり	→ 「0」で入力する	・「有」「無」両方に印あり	→ 「1」で入力する	・記載なし	→ 「0」で入力する
記載内容	変換後																								
・「有」に印あり	→ 「1」で入力する																								
・「無」に印あり	→ 「0」で入力する																								
・「有」「無」両方に印あり	→ 「1」で入力する																								
・記載なし	→ 「0」で入力する																								
記載内容	変換後																								
・「有」に印あり	→ 「1」で入力する																								
・「無」に印あり	→ 「0」で入力する																								
・「有」「無」両方に印あり	→ 「1」で入力する																								
・記載なし	→ 「0」で入力する																								

	記載内容	変換後
処 理 条 件	・「自己所有」に印あり	→ 「2」で入力する
	・「借家」に印あり	→ 「3」で入力する
	・「自己所有」「借家」両方に印あり	→ 「2」で入力する
	申告書に記載がない場合はデータの作成を行わないこと。	